

震災で研究室に起こったことは、機器設備の損壊と試料の散逸に加えて、食料、水、ガソリン、電気、ガスの不足、走っていたことが急停止した後の空白感、大きな余震で震災直後の状態に後退したこと、原発事故への対処など多くありました。4月から少しずつ活動を開始して、現在は震災前に近い状態になっています。この間に教員と学生は多くのことを学び、少し人生観も変わったと思います。災害・事故はおきうること、そのときには個人が自発的に行動開始しなければならないこと、不安を持ちながらも勇気を出して行動すること、支援は行動している人に有効であること、現実を正視することの重要性、できるだけ準備をすること、それでも完全はあり得ないこと、突然の空白時間を有効に使うこと、停止してしまった人が再起することに力を貸す方法、起こったことを後から非難することの愚かさなど。これは私たちの貴重な財産になりました。今回のことについて、諸先輩と卒業生の方々のご支援に心よりお礼申し上げます。